

第12回（平成17年度）

【活動部門】



■大和駅前、未来きれい大作戦〈やまとプロムナード〉 ～中学生ボランティアを中心とするまち緑化・美化活動～

プロムナードは様々なイベントにも活用される公共のオープンスペースである。この公共空間で、次代のまちを担う中学生ボランティアの手により魅力的なものに育てていく、潤いと人の暖かさを感じさせる街づくり活動をしている。この活動は、“地域の底力事業”の一環として、自治会、家庭地域家庭活性化会議など様々な団体と連携しながら行われ、底力事業の期間で終わることなく、継続的な活動として街づくりへと繋がっていくことが期待される。



■「新道下ふれあい緑地」(引地川河川敷) 開設・維持保全活動

せせらぎ、樹木の緑、土の地面を感じることでできる引地川の河川敷に関わる地域活動をしている。地域住民による河川管理への協力活動を経て、地域の公園的広場として利用できるよう、管理者である県とルールを結んだ。この緑地に関わるイベント等を通じて、緑豊かな住宅地として地区の良好な住環境を形成していく、継続的な街づくり活動へと発展していくことが期待される。

【事例部門】



■アムールホール・大長産業株式会社 （深見西）

事業所に音楽ホールが併設された建物で、セットバックした空間は、実のなる木の植栽や音符の壁面レリーフなどにより、ホールへのアプローチを演出し、ゆとりの空間を創出している。



■山下邸 階段状アプローチ （福田）

高い擁壁が続く通りにあり、広く空間をとった階段状アプローチをつくっている。石積みと植栽や鉢植えとの調和も良く、つくり手の繊細な心遣いを感じ取ることができる空間である。



■小泉歯科医院 駐車場からの アプローチ（福田）

高低差のある敷地を上手く利用して、高台側駐車場からのアプローチは、白樺やパーゴラ、ゲート、ひかえめな看板などで、手づくりの暖かさの感じられる空間をつくっている。



■ベルベ（大和）駅前店（大和東）

プロムナード側に新たに設け整えられた石積みの入口は、魅力的な空間となっている。反対側の商店街側にも入口があり、セットバックにより創出されたゆとり空間を、オープンカフェ風に活用し、まちの憩える空間として演出している。



■カフェテリアみなみ風 〈大和スポーツセンター〉 （上草柳）

スポーツ利用者のための空間として閉鎖的だった競技場を、より広く市民に開放している。全面ガラス張りの壁面は、オープンで軽快な印象を与え、内部からは迫力あるトラックの眺めを楽しむことができる。



■三機自然環境園（ピオトープ） 〈三機工業株式会社大和事業所〉 （下鶴間）

工業系の街並みの中に、大和の自然環境を身近に感じ、体験できる『自然環境園』がつくられた。事業所の私有地を散策できるように市民に開放した取組みが高く評価される。

第13回（平成18年度）

【事例部門】



■柳橋2丁目19,20番街区の街並み（柳橋）

統一感のある建物のデザインや色彩などにより落ち着いた街並みを形成している。低く抑えられた生垣や庭なども手入れが行き届いており、街並みの調和が保たれている。また建築後10年が経ち、再度住民合意により建築協定を締結するなど、街並みを住民自ら保全する努力も評価できる。



■T邸「矢倉沢往還の緑豊かな庭」（下鶴間）

歴史ある街並みの一角に緑豊かで開放的な庭をつくり出している。緑が多い矢倉沢往還の中でも、よく手入れされたツゲの高生垣や日本の四季の移ろいを感じさせる植物を多く植えるなど、街に潤いを与える一角となっている。また漆喰の蔵など歴史を感じさせ、沿道景観の優れたアクセントになっている。今後も矢倉沢往還の歴史ある街並みづくりへの貢献を期待する。



■北島生花店（つきみ野）

住宅街の角地に面してゆとりのある土地利用がなされている。セットバックしたスペースに花を並べ、道行く人を楽しませている。また、建物も明るく軽快に仕上げられている。周辺の住宅地の街並みに上手く溶け込んだ店舗としての好事例といえる。



■緒里都&暮らしのギャラリー（福田）

門を一步入ると長年丹精込めて造られた素晴らしい庭が広がっている。特に生垣や四季折々の植物の選び方などにセンスの良さが感じられる。できれば、もう少し道行く人への内部の優れた部分のアピールがあってもよいと感じる。また、ギャラリーを開放し、市民の交流の場を創り出している点も評価できる。



■金子邸「矢倉沢往還の風格ある門構え」（下鶴間）

重厚な瓦葺の門と石垣と板塀を組み合わせ、めずらしい瓦のせ堀の屋敷である。山石の石垣には石工の秀逸な技術がうかがえる。また、長い塀まわりの庭の緑が通りに風格を与えている。特に高生垣は非常に価値あるものだ。歴史を現代に伝える貴重な屋敷を代々引き継ぎ、今後も矢倉往還の歴史的街並みづくりへの貢献に期待する。



■大和市障害者自立支援センター（鶴間）

ローコストながら清涼感と明るさがあり、街との交流に配慮した開放的な設計が評価できる。U字溝などを活用したベンチなど道行く人も座りたくなるような楽しい工夫が見られる。今後、木々の成長とともに、人々の憩いの場として活用されることを期待する。

第14回（平成19年度）

【活動部門】



■内山の街づくりを考える会（下鶴間）

自分たちの住む街をよくしていきたいという思いをきっかけに活動が進められている。内山地区の街づくりの課題を行政への要請だけに終わらせることなく、街の皆さんの自主的で継続的な活動となっている点が評価できる。まだ、プランやルールなど具体的な街づくりの成果が得られていないが、アンケートや頻繁な勉強会の開催などにより、住民の意向を反映し、内山の特徴を活かした街づくりが実現することを期待する。

【事例部門】



■森永邸「枝垂れ桜と緑豊かな庭」（渋谷）

枝垂れ桜が敷地角にシンボリックに配され、道を通る人にも季節感を感じさせる緑豊かな庭がつくられている。さらに隣接する公園の樹木、林と合わせて、地域にとって良好な環境をつくり出している。



■針邸「壁面緑化とプランターによる外周部の演出」（福田）

無機質な表情となりやすい壁面・フェンスを立体的に活用し、壁面緑化やプランターの設置など豊富な草花で、道行く人の目を楽しませている。



■川崎邸「開放的な前庭と立体的花壇」（中央林間）

シンボリックな松をくぐった前庭が通りと一体になり、門扉も開放して庭にもつながる、楽しい街角をつくり出している。



■富塚邸「古き中央林間の面影を残す庭」（中央林間）

低い生垣越しに、とても広い庭全体が見渡せる。豊富な庭木の配置も的確で樹木園の趣を呈している。林間都市開発による分譲当時の佇まいを残す貴重な空間といえる。道行く人にも心安らぐ豊かな空間だが、さらに四季折々に花を付ける木々などによって、すばらしい街並みをつくり出すだろう。



■プライドシーズン中央林間（下鶴間）

36戸の街区の中央にゆるやかに屈曲する道を配し、街並みに変化を生み出す等、空間形成の工夫が見られる。また、屋根や外壁の材質、色彩、開放的な外構などにも統一感が表れている。



■市営鶴間台住宅（鶴間）

壁面緑化、太陽光発電等の環境負荷軽減への取組み、緑地・建物の配置等は集合住宅の模範的な計画と思われる。また、既存の大木を残して、居住者にも街の人にもシンボリックな空間をつくっている点も評価できる。これから、住民の手により緑豊かな住宅環境に育っていくことを期待する。